⑥　「暁星淡く瞬きて・長崎高商・経済学部七拾年史」瓊林会編を読む

本書は昭和50(一九七五)年、母校同窓会たる瓊林会が、学校創立70周年を機に刊行した世間に冠たる母校史である。本書は臙脂色の堅牢な表紙を備え、ずっしりと持ち重りがする。その中に収められたB5判・六三七頁の本文に、別刷八頁の年表を掲げ、多数の図録・写真を収載する。母校史はそれまでに「二十年誌・玄鶴」「三十年史」と刊行されたが、本書は戦中戦後の四十年の歳月を経て、創立七拾年を迎えた母校の幅広い分野(組織・施設・教育・教師・学生・同窓生・運動・文化など)の事歴を集成した百科事典的な書物となっている。

本書の構成は五部に分かれる。即ち、第一部・創立の沿革、第二部・長崎高等商業学校（第1章・創立10年の歩み、第2章・拡充発展時代、第3章・戦時教育時代、第4章・戦後時代）第三部・長崎大学経済学部と商業短期大学部（第1章・長崎大学の設置、第2章・経済学部の歩み、第3章・商業短期大学部）第四部・教官と学友会(第1章・教官、第2章・校則と施設、第3章・学友会)。そして第五部・瓊林会（1・概観、2・同窓会時代、3・瓊林会時代、4・同窓会誌と各回会誌について）となっており、最後に「編集後記」が置かれる。本書の編纂は、三瀬清次郎(24)事務局長のもと、平尾勇(38)委員長・種吉義人(41)主査・岩永義人(41)・西山淳次(元事務局長)の5名が「普通は3年かかる常識を1年5ヶ月で70周年の祝典当日に間に合うように仕上げた」。他にも数十名に及ぶ同窓会員の玉稿が随所に挿入されている。

瓊林会は「30年史」以降、母校創立50年――65年に3冊の写真アルバムを作成したが、文筆による本格的母校史の編纂は久し振りである。其処には少なくとも次の如き課題があった。即ち、①学校当局が作った「30年史」に対し、それを踏まえ同窓会の視点での「70年史」をどう書くか。②戦中・戦後を乗り超えてきた我が国の経済社会、その唯中で新制大学へ移行した母校を如何に捉えるのか、③その間同窓会と会員諸兄は如何なる歳月を過ごしたのか。

本書ではこうした課題が「第二部・第3・4章・高商・戦時教育・戦後時代」「第三部・第2章経済学部の歩み」「第四部第3章・学友会」などの各章を軸に、様々な挿話を鏤めた平易な文章で軽快に記述され、見事な仕上がりとなっている。その反面「第四部・教官と学友会」では「30年史」の叙述に見習うように丁寧な「教官一覧」「校則・施設・学科概要」を掲げる固い表現を採っている。本書はそれから再び反転し「第四部・学友会」の項では、各運動部の試合成績を延々と掲げ、「第五部・瓊林会」「同窓会誌と各回会誌」の項でも同様の遊びを行っている。こうした編纂は変化自在・自由闊達であるが嫌味がない。この成果は将に昭和50年のこの時期に、高度経済成長の頂点に登り詰めた現役の高商世代がいて、彼等の母校愛が、本書制作の集団的な「憑依」に結実したからではなかろうか。本書から40年後の今日まで、文章による母校史は書かれていない。学卒世代が母校史を書くならば、全ては本書から出発する。

☆本書の周辺☆　同窓諸兄が御存じの書物。に「暁星淡く瞬きて」と書く函入。母校史の歴史的な大著。長崎の古書肆や、全国を探してもこの本はもう見付かぬ。瓊林会館には2冊学部分館・書庫・県立図書館が持っている。